

# 第4章 学生の学習環境

藤田 礼子<sup>1</sup>

サイバー大学は、インターネットを利用した完全通信制の大学である。第1章で述べられているように、場所や時間を問わずに学べる場を、学習管理システム（LMS：Learning Management System）上に構築している。この学習管理システムには、授業をコントロールする教員サイトと、学生が授業を受ける学生専用サイトが設けられている。

通常、学習環境といった場合、通学制の大学であれば机やイス、黒板などの什器から、教室で配布される資料類、実習で使う道具類などが当てはまるかもしれない。しかしながら、インターネットを利用した完全通信制の大学である本学では、こうした「もの」ではなく、機能をもって学習環境を構築している。

そこで第4章では、本学学生の学習環境について、システム面とその他のサポート面に分けて述べる。学生の学習に関わるシステムのほとんどは学生専用サイトに設けられているため、まずは科目を履修して受講する際に学生が必ずアクセスする学生専用サイトの「履修登録」、「授業」、「試験・成績」の各ページを取り上げ、科目履修に関連してどのような学習環境が構築されているのかを述べる。次いで、さらに進んだ学習や研究に取り組むために必要な学術情報のサポート体制について述べる。さらに、学生専用サイト内外のシステムを使用した広い意味で学生の学習をサポートする体制についても述べることとする<sup>(1)</sup>。

## 1. 「履修登録」ページ

サイバー大学に入学して学ぶためには、まず履修登録をする必要がある。本学の学期は半期で区切られており、春学期の履修登録は3月に、秋学期の履修登録は9月に行われる。履修登録期間が近づくと、学生専用サイトの「サイバー大学からのお知らせ」に履修登録の案内が掲示されるので、その案内に従って「履修登録」ページにアクセスして履修登録を行う。履修登録画面には、7つの項目が設定されている（図1）。

### 1.1 履修登録準備

まずは、「履修登録及び確認」ページにおいて、各個人の履修に関するステータスを確認し、続いて「履修登録について」ページにて、履修登録の一連の流れとスケジュールを把握する。

「履修登録案内」ページには、履修を行う前に確認すべき『サイバー大学履修規程』へのリンク、登録上の留意点や卒業要件、4年で卒業する場合の履修計画や履修登録及び授

1 世界遺産学部・助教



図1 「履修登録」ページ

業のスケジュールが掲示されている。各科目区分の説明と同時に、履修単位の上限および下限に関する情報、成績に関する情報など、授業を受けて単位を取得し、卒業を目指す学生にとって必要な情報がひとまとまりになっている。

## 1.2 開設科目案内

実際に履修登録するにあたり、その学期に開設される科目を確認する必要がある。「開設科目案内」ページには、「IT 総合学部」「世界遺産学部」「共通課程」という3つのタグで、当該学期の開設科目がリスト化されている。それぞれの科目には、シラバスへのリンクと、サンプル授業へのリンクが張られている。学生は履修を検討している科目のシラバスを閲覧し、さらにサンプル授業として第1回の授業コンテンツを視聴した上で、履修科目を決定することが可能となっている。

大半の科目では、第1回の授業コンテンツで、教員の自己紹介、当該授業の目的と構成、成績評価などを説明している。そのため、第1回コンテンツを視聴した上で履修する科目を選択できる現行のシステムは、学生にとって有益であると考えられる。

## 1.3 専門科目履修モデル

本学は「IT 総合学部」と「世界遺産学部」の2学部構成となっており、卒業を目指し

で正科生として入学した学生は、そのいずれかの学部にも所属する。各学部には「基礎講義」「基礎演習」「専門講義」「専門演習」「卒業研究」の科目群で構成される専門科目が設置されており、学生は自分の興味や進路希望に基づいて履修計画を立てていくことになる。数多くの専門科目の中から、どの科目を履修すれば自分が希望する分野のことが学べるかの参考となるように、両学部とも履修モデルを作成して、「専門科目履修モデル」ページに提示している。このページに提示されているモデルは一例に過ぎないが、学生の履修科目の選択を大いに助ける役目を果たしている。

#### 1.4 履修登録サポート

本学に在籍して卒業を目指すにあたり、履修登録は重要な位置づけにある。そのために、学生が疑問に思うと考えられる事項をピックアップし、「履修登録についてよくあるご質問」としてまとめている。

以上で述べたように、学生専用サイトにおいて、それぞれの学生が自分で資料を閲覧し、履修登録を行える環境は整えられている。しかし、資料の数も膨大で、全てを一度に理解するのは難しい。そのため、2008年度秋学期には全学的に履修相談会を開催し、その後は担任制を導入して、担任が学生の履修相談に応じる体制を整えている。

## 2. 「授業」ページ

本学の学生の学習の中心は、学生専用サイトにアクセスして「授業」を受けることである。学生専用サイトの「授業」ページには、学生が履修登録した科目の授業を受けるため

サイバー大学 Cyber University

文字サイズ 小 中 大 お知らせ ヘルプ プロフィール設定 サイトマップ ログアウト

ホーム 授業 試験・成績 履修登録 各種申請 学生サポート リンク

現在位置: ホーム > 授業

授業

受講する ▼科目を選択してください 移動 受講科目の一覧はこちら

学科からのお知らせ

- 5月10日 再掲載【世界遺産検定】(受験料割引)のご案内
- 4月27日 【大学HP 教員リレーコラム第10回】(世界遺産学部)掲載のお知らせ
- 4月15日 【大学HP 教員リレーコラム第10回】(IT総合学部)掲載のお知らせ
- 4月9日 【ライブ配信】「プロジェクト研究所 研究活動報告会」ライブ配信のお知らせ
- 4月6日 【NPO法人学生ネットワークWAN主催】Microsoft社セミナーのご案内

各科目の視聴状況 視聴 異常終了 未受講あり 欠席 対象なし

15回 (専門・語学)

第3回の開講期間は5月11日(火)24時まで

科目	講義		小テスト		レポート	
	3回	4回	3回	4回	3回	4回
コンテンツサービステクノロジー入門	▲	▲	▲	▲	—	—
テクノロジー活用演習	▲	▲	—	—	▲	▲
コンテンツビジネス生態系論	▲	▲	▲	▲	—	—

図2 「授業」ページ

に必要なシステムがまとめられている（図2）。

まず「授業」ページにアクセスすると、「受講する」というボックスがあり、ここで科目を選ぶことができる。またその下部には「学科からのお知らせ」と「各科目の視聴状況」という枠があり、この「各科目の視聴状況」で現在までの授業参加状況を確認した上で、科目のページに移動することも可能となっている。

右枠のメニュー項目には、「受講科目一覧」、「時間割」、「視聴状況」、「授業評価アンケート」の4項目が設置されている。「受講科目一覧」は履修している科目名、科目区分、科目グループ、教員名、単位数で構成された表となっている。次に「時間割」という項目があり、各回の授業の開講スケジュールが記載されている。

「視聴状況」は履修登録を行っている全ての科目の視聴状況、小テストの受験状況、レポートの提出状況を一覧で表示するページとなっており、学生自身が学習の進行状況を確認することが可能となっている。「授業評価アンケート」は、2単位科目（15回の授業で構成）、1単位科目（8回の授業で構成）のそれぞれの最終回授業開講時期に実施される「授業評価アンケート」を実施するためのページとなっている。学生は授業を受けるだけでなく、受けた授業に対する感想や評価を、この授業評価アンケートに答えることで教員に対してフィードバックすることが可能となっている。

### 2.1 「受講」ページ（コンテンツの視聴）

「授業」ページの「受講する」から、科目を選択して移動ボタンを押すと、その科目のページに移動できる（図3）。この科目のページで「科目のお知らせ」を確認したり、出席認定期間内の授業回に、小テストやレポートなどの課題が設置されているかを確認することが可能になっている。

授業コンテンツを視聴する場合は、科目のトップページ（「受講」ページ）から視聴を希望する授業回のタグを押してそのページを開き、「授業の内容」またはその横の「視聴する」ボタンを押して、授業コンテンツを視聴する。ほとんどの講義科目は、1回の授業が各15分程度の4章構成になっており、1章ずつ独立して視聴することが可能となっている。授業コンテンツは別ウィンドウで立ち上がり、視聴が終わったらウィンドウを閉じる。

### 2.2 小テスト受験

学生は授業コンテンツを視聴した後に、授業内容の理解度を測る目的で設置されている小テストを受験する。講義科目では、コンテンツを視聴しただけでは出席にならず、小テストを受験して初めてその回の授業に出席したと認定される。

2010年度春学期から小テストのシステムが一部変更になり、各回の出席認定期間を過ぎても1度のみ遅刻受験が可能になった。変更後のシステムは以下の通りである。

出席認定期間内にコンテンツを視聴して小テストを受験すると、受験結果として点数のみがすぐに公開される。その点数を学生は確認した上で、満点でなかった場合は何度でも再受験が可能となっている。ただし、記録として成績評価に結びつくのは最後に受験した

## 第4章 学生の学習環境

The screenshot shows the 'Lecture' page for the course 'Report Writing' (レポート・論文の書き方). The page is part of the Cyber University system. It includes a navigation menu, a breadcrumb trail, and a main content area with a table of lecture chapters. The table has columns for 'Chapter', 'Status', 'Lecture Content', and 'View'. The chapters listed are: 1. Materials and Bookings, 2. Reference Materials, 3. Literature Search, and 4. Literature Cards. There are also sections for 'Small Test' and 'Report' with instructions. A right sidebar contains 'Lecture' and 'Help' sections.

章	状況	授業の内容	視聴
1章	▲	資料と図書館	視聴する
2章	▲	レファレンス資料	視聴する
3章	▲	文献検索	視聴する
4章	▲	文献カード	視聴する

図3 「授業」ページ：受講

時の点数である。出席認定期間内に受験した学生に対しては、出席認定期間後に解答と解説が表示されるので、その時点で復習することが可能となっている。

出席認定期間内に受験しなかった場合、期間後であっても最終回授業の終了までの期間に、一度のみ遅刻受験が可能になっている。遅刻の場合も、コンテンツを視聴した上で受験する。なおこの場合は、受験後すぐに解答と解説が表示される仕組みになっている。

2009年度秋学期までは、出席認定期間内にしか小テストを受験できなかったため、出席認定において遅刻という概念が無かった。そのため、小テストを期間内に受験できなかった学生に対しては、教員が個別にレポートを課すなどして対応を行っていた。2010年度春学期より、小テストのシステムの中に遅刻受験制度が盛り込まれたことから、遅刻者に対して個別に対応する必要が無くなり、教員にとっても学生にとっても今回のシステム改修は利便性を持ったものであると考えられる。なお、遅刻受験に対する成績評価配分は、科目単位で教員判断により決定でき、その成績評価配分は「科目のお知らせ」で学生に周知することになっている。

### 2.3 レポート提出

演習科目では演習の課題として、また講義科目でも授業の理解度を測るものとして、レポートが課されることがある。

教員はレポート課題を学生に提示する際、締切日時、出題テーマ、文字数、配点等を設

定する。また、学生が添付ファイルでレポートを提出することを許可するかどうかの設定も同時に行う。

学生は「授業」ページを開き、受講している科目でレポートが課されているかどうかを確認する。レポートが課されていた場合、「レポート」ページで教員が提示したレポート課題内容と提出方法を確認した上で、期限内に作成して提出する。

レポート提出方法は、提出内容というボックス内に直接記入するか、ファイルでレポートを作成し、そのファイルを添付（アップロード）して提出するかのいずれかである。

学生が提出したレポートに対して、教員は「教員確認」ボタンを押すことで、提出を確認したことを学生に知らせる。いったん確認ボタンが押されると、学生は再提出ができなくなる。レポートに不備があり、再提出が必要になった場合は、「教員確認」を解除することで、学生のレポート再提出が可能となる。

「教員確認」ボタンを押した後、教員はレポートの評価を行う。ただ点数をつけるだけではなく、評価内容欄にコメントを記載したり、学生が提出したレポートファイルに対してコメントをつけて添付で返却したりすることが可能となっている。

なお、レポートに関しては、教員が定めた締切日時を過ぎても最終回授業の終了日まで系統的に提出は可能となっているが、期日を過ぎたレポートを受理するかどうかは、科目担当教員の判断に任されている。

学生が作成して提出するレポートの形式には、テキストファイルや Word ファイル、Excel ファイルなどを作成して提出する文字や文章をベースとしたレポートと、画像ファイルや映像ファイルを作成して提出するレポートがある。

本学のレポートの特徴の一つとして、Xinics 社の提供する Xpert というプレゼンテーション用のソフトウェアを利用した学生のコンテンツ作成が挙げられる（図4）。主に世界遺産学部の基礎演習科目で活用されている形態で、教員が提示した課題に対し、学生は文章で書いたレポートを提出するのではなく、Word や PowerPoint といったソフトウェアで資料を作成した後、その資料を基に学生自身がプレゼンテーションした映像を作成し、レポートとして提出するというものである。

提出された映像は授業コンテンツとして配信される場合もあり、教員から講評が行われるだけでなく、その科目を履修する学生同士

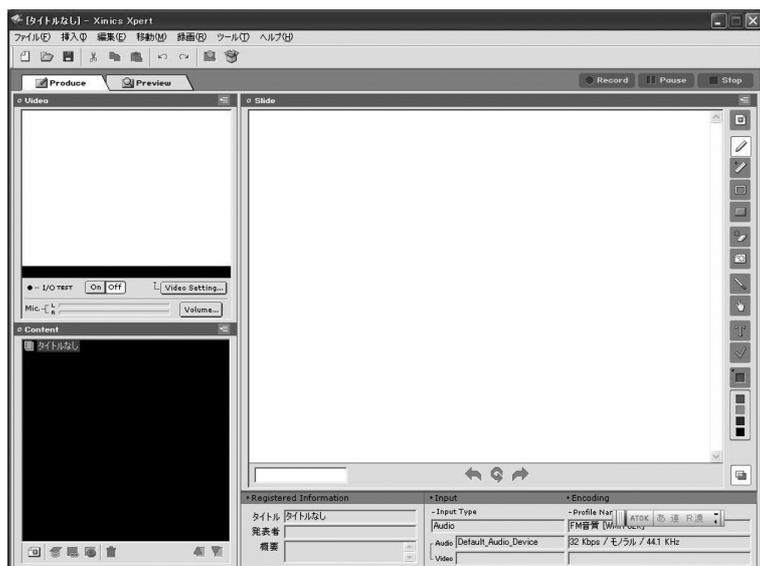


図4 プレゼンテーション作成ソフト「Xpert」

でレポート内容についてディベートを行うことが可能になっている。この Xpert を使用することで、通学制の大学の教室で行われているような演習授業を非同期で行うことが可能になっている。

#### 2.4 ディベートルーム

本学では、平成19年7月21日に出された「文部科学省告示第114号」<sup>(2)</sup>を受け、当該授業に関する学生等の意見の交換の機会を確保するために、授業期間を通じて少なくとも一つ以上のディベートルームを開設するというガイドラインを設けている。また本学ではこのディベートルームを、eラーニングにおける協調学習の場と位置づけている。

各授業に設置されているディベートルームのテーマは、各教員に任されている。自己紹介や学生同士の交流用であったり、授業に関連したテーマでのディベートを行う場であったりと、様々である。また参加形態についても、演習科目などで多く見られる書き込みが必須となっている場合と、任意の場合がある。任意の場合でも、ディベートルームでの書き込みで平常点を評価している科目もある。

学生はこのディベートルームに書き込む際、「名前」「ニックネーム」「匿名」という3つの名前を使い分けることが可能となっている。このニックネームの設定は、「プロフィールの管理」で行う。「ニックネーム」や「匿名」という名前の使用を導入したのは、教室で発言するのとは異なり、学生の書き込みは記録として残ってしまうことによる書き込みに対する心理的負担感を軽減する目的からである。「ニックネーム」や「匿名」を使って書き込むと、他の学生には誰が書き込んだのかは分からないが、教員やメンターは教員サイトから書き込み者を確認することが可能であるため、本名でなくとも授業運営上問題にはならない。

#### 2.5 Q&A

授業内容、課されている小テストやレポート等、科目に関する質疑応答が可能な場として、Q&A 掲示板が設置されている。この掲示板は、学生が質問を書き込み、それに対して教員が返答する、という仕組みになっている。この仕組みからも分かるように、Q&A は学生と教員が1対1でやり取りする場となるが、それぞれの書き込みは、当該科目を履修している学生全員の閲覧が可能となっている。そのため、このQ&A 掲示板でもディベートルームと同様に、「名前」「ニックネーム」「匿名」の3つの名前を使い分けることが可能となっている。

なおこのQ&A 掲示板は、各授業回の出席認定期間と完全に連動しており、学生は出席認定期間内にしか質問の書き込みができない。また学生が書き込んだ質問に対して教員が返答するという一方通行の流れのみで、教員の返答に対してさらに質問する場合、学生は別の質問として書き込まなくてはならない。さらに、出席認定期間終了後も教員は返答を書き込むことが可能であるが、学生は追加の質問を書き込むことはできない。そのため出席認定期間後の質疑応答は、別の授業回のQ&A 掲示板を使うか、教員とメール等で

個別に行うしか方法がない。なおディベートルームとは異なり、このQ & A 掲示板はいったん書き込むと削除や修正ができない仕様となっている。

以上のようなシステム上の制限から、ディベートルームに質問コーナーを設置するなど、科目ごとに授業運営で工夫を行っている。

### 2.6 期末試験レポート

期末試験として、期末試験レポートが課されている場合、期末試験レポートのページで課題内容を確認してレポート作成に取り組む。仕組みとしては通常のレポート提出と同じであるが、期末試験時の本人確認の精度を高めるために、必ず提出時に「顔認証」を行うことが必要な設定になっている。そのため、学生はウェブカメラを事前にセットし、顔認証を行った上で、期末試験レポートを提出する。

### 2.7 シラバス

学生は授業期間にいつでも当該科目のシラバスを確認することができるように、「授業」ページにシラバスへのリンクが用意されている。その科目の概要、目的、教科書、参考資料、成績評価配分、各回の授業内容など、履修登録時と同じ情報の閲覧が可能となっている。しかしながら、履修登録時や授業運営期間中でも、学生があまりシラバスを確認していないと思われる場面もあり、このシラバスの重要性を今後学生に周知していく必要があると考えられる。

### 2.8 学習資料

科目担当教員は、事前に収録した授業コンテンツ内に学習に必要な情報は盛り込んでいるが、収録以降の新しい情報や補足情報などについては、「学習資料」ページで学生に提供することが可能となっている。学生はこの学習資料のページに提示された情報を閲覧することで、授業コンテンツの理解を深める助けとすることができる。

### 2.9 前回までの評価情報

「前回までの評価情報」のページでは、当該科目における学習の進み具合を確認することが可能となっている。具体的には、視聴、小テストの受験状況、レポートの提出状況および点数の確認が可能である。それぞれ該当項目について、マークおよび数値で記されている。

### 2.10 科目のお知らせ

科目の授業運営において、教員・メンターから学生に知らせたい事項を掲示する場所として、「科目のお知らせ」ページが設置されている。ここには教員の自己紹介、メンターの自己紹介、授業運営に関するお知らせ、学生への課題締切の注意喚起など、様々な内容のお知らせが掲示される。全学的なお知らせは「サイバー大学からのお知らせ」や「学科

からのお知らせ」に掲示されるため、この「科目のお知らせ」は、科目に特化したお知らせを掲載する場所としてすみ分けがなされている。

## 2.11 その他

同じ科目を履修している学生の情報は、クラスメートで確認することが可能である。クラスメートの名前のリンクをクリックすると、その学生の情報が閲覧できるが、生年月日、大学メールアドレス、職業、地域を公開するかどうかは、「ホーム」の「個人情報の管理」のページで各自が設定できる。

自宅での孤独な学習ということではなく、同じ科目を履修している学生同士、クラスメート機能を使って確認し、ショートメッセージを送ったり、さらに科目ごとに設置されている「ディベートルーム」で対話を交わしたりすることで、eラーニングでの学習の相互促進機能を果たすことが可能となっている。

## 3. 「試験・成績」ページ

サイバー大学の学期末試験は「期末試験システムを使用した試験」と「期末試験レポート」の二つに大別される。「期末試験システムを使用した試験」は外部システムを使った選択式・記述式（完全一致）の期末試験であり、「期末試験レポート」は第2節で説明した「授業」ページの中に設置された記述式の期末試験である。こうした期末試験に関する情報と、成績に関する情報を掲載しているのが「試験・成績」ページである（図5）。

### 3.1 期末試験および期末レポートについて

まず「期末試験および期末レポートについて」ページに、期末試験実施期間と期末試験レポートの提出期間が明記されている。通常、期末試験期間として3週間が設定される。



図5 「試験・成績」ページ

期末試験レポートは前述したように「授業」ページの中の期末試験レポートのページで課題内容を確認して提出する。期末試験システムを使った試験が実施される場合は、まず試験期間になると「試験・成績」ページのトップに「期末試験の受験はこちら」というリンクが表示される。学生はリンクをクリックして期末試験システムのページに移動し、期末試験用のIDとパスワードを入力し、「顔認証」を受けた上で試験ページにログインして受験する。期末試験期間は3週間設定されているとはいえ、期末試験システムを使用した試験は1科目1度しか受験できない。そのため、学生は事前に十分に試験準備を行った上で、受験することが求められている。なお、期末試験レポートについては、通常のレポート同様に、「教員確認」ボタンが押されるまでは、何度でも再提出が可能な設定となっている。

いずれにせよ、科目を履修して単位を取得するには、その科目で指定された期末試験を必ず受験する必要がある。

### 3.2 成績評価について

「成績評価について」は、本学の成績評価の仕組みを説明しているページである。各科目のシラバスにも記載されている評価項目、成績表示、GPAの計算方法等が説明されている。本学に入学した学生は、このページおよび「学生サポート」のページにアップされている『サイバー大学履修規程』をよく確認しておくことが大切である。

### 3.3 前週までの評価まとめ

「前週までの評価まとめ」は、当該学期に履修している科目の評価状況をまとめたページとなっている。科目ごとに授業コンテンツの視聴率、小テストの受験結果（点数）、レポートの評価点（点数が公開となっている場合のみ点数が記載される）が記載されている。前述したように、「授業ページ」の各科目にリンクされている「前回までの評価情報」ページでは、当該科目の参加状況を確認することが可能であったが、この「前週までの評価まとめ」では、当該学期に履修している科目すべての授業への参加状況を確認することができるため、学生自ら学習の進行状況を把握しつつ、授業に取り組んでいくことが可能となっている。

### 3.4 成績照会

卒業を目指す正科生にとっては、すでにどの程度の単位を取得しているかを認識することはとても重要である。「成績照会」ページで学生は前学期までに取得済みの単位数を確認することができる。ここには、タグが4つ設置されている。まず「今学期の成績」には、学期末の成績発表後に当該学期の成績が掲載される。「年度/学期別取得単位表」では、前学期までの学期別の履修科目と取得単位数が一覧になっている。「科目区分別取得単位表」では、教養、外国語、専門科目等の科目区分単位でまとめられている。そして最後に「卒業単位数確認」で、卒業に必要な単位の内、何単位をすでに取得済みかを確認するこ

とができる。この成績評価のページは、成績発表時と履修登録時には、必ず確認することが必要なページとなっている。

## 4. 学術情報リンク

以上、本学における学習環境のメインである科目履修に関わる仕組みについて、「履修登録」、「授業」、「試験・成績」の各ページを説明することで述べてきた。しかし、大学等の高等教育で学ぶということは、科目を履修して学び、試験を受けて単位を取得するだけでは十分ではない。授業を受けることにより得た知識をさらに深めるため、また課題として出されたレポートなどに取り組むためには、学習者自身が自学自習を進める必要がある。

文部科学省令である大学設置基準によると、大学は図書館を設置し、図書や学術雑誌などの教育研究上必要な資料を備えることが義務づけられている<sup>(3)</sup>。本学の図書館は福岡校舎に併設されており、2010年3月末時点で、16,789冊の書籍や雑誌類が所蔵されている。しかし、本学には日本のみならず、海外在住者も学生として在籍しており、学習・研究に必要な情報を本学の図書館に行き得ることができない学生は一部に限られるため、本学の図書館の蔵書検索と遠隔利用体制が整備され、その他の学術情報サイトのリンクページが開設されている（図6）。

### 4.1 サイバー大学図書館蔵書検索

本学の福岡校舎に併設されている図書館の蔵書検索サイトへのリンク、貸出方法等の説明が掲載されている。学生はここで検索を行い、所蔵している書籍に関しては直接来館し



図6 「リンク」ページ

で貸出を受けたり、メールでの貸出依頼申請を行ったりすることが可能になっている。また2010年5月より、図書館での複写、および遠隔地から複写依頼を受け付ける体制が整えられている。

### 4.2 ブリタニカ・オンライン・ジャパン

2007年10月より、学生・教員向けに、電子百科事典である「ブリタニカ・オンライン・ジャパン」のサービスを導入している。この「ブリタニカ・オンライン・ジャパン」は、大項目と小項目からなる二つの百科事典と、世界で200を超える国の最新統計データを見ることができる国際年鑑で構成されている。インターネット上には様々な情報があるが、レポートの作成時にはこうした執筆責任の明確な情報（事典）を活用するように、学生への指導を行っている。

### 4.3 CiNii（サイニィ）

大学で学び研究する場合、書店で販売されている一般書籍だけでは情報が不十分で、必ず論文等の先行研究を確認する必要がある。そうしたニーズに応えるために、本学では2007年10月より国立情報学研究所が提供する論文データベース検索サービス「CiNii」を導入している。日本の学術論文を中心とした論文検索が可能となっており、その内の一部はpdfで本文を閲覧することも可能である。CiNiiで本文が閲覧できない場合も、Webcat Plusで他機関の所蔵状況や、NDL-OPACで国立国会図書館の所蔵情報が確認できるため、本学の図書館を通じて他機関への紹介状を発行してもらい、訪問して閲覧や複写依頼を出したり、国立国会図書館から複写を郵送で取り寄せたりすることも可能になっている。

### 4.4 JSTOR

学習・研究テーマによっては、日本で発刊されている日本語で書かれた学術論文のみでは不十分であることが多い。しかしながら、外国で発刊された学術雑誌を一つの大学で全て購入するのは、費用面においても収蔵スペースにおいても難しい。こうした問題を解決する一つの手段として、電子媒体としてアーカイブ化された学術情報へアクセスできるように、電子ジャーナルを導入する大学が増えている。本学でも2010年5月より、アメリカの非営利団体であるJSTORが提供している電子ジャーナルを導入した。

JSTORでは、各学術雑誌を単独で扱うのではなく、複数の雑誌をまとめてコレクションを作成し、そのコレクション単位で利用希望者に提供している。2010年5月現在で、人文系で14、理数・科学系で5つのコレクションが用意されている。本学では、教員へのアンケートなどをもとに、「Arts & Sciences VII Collection」を導入した。

### 4.5 図書館関連リンク

前述した様に、本学は完全インターネットのみで授業を行う大学であり、学生は日本のみならず、海外にも在住している。そのため、学生それぞれの環境に合わせて必要な学術

情報が入手できるように、インターネットを経由して入手できる様々な情報のリンク集を作成している。図書館情報、ニュース、百科事典、電子ジャーナル、書籍探索に加えて、IT 総合学部と世界遺産学部の両学部推薦のサイト情報も掲載しており、今後学生のニーズに合わせて、信頼のおけるサイトのリンク情報を増やしていく予定である。

## 5. 学習環境をサポートする体制（学生専用サイト内）

前節では、本学の学生専用サイト内に用意されている学術情報のサポート体制について説明してきた。本学の学生専用サイト内には、その他にも学習環境をサポートする体制があり、第5節ではそれらを取り上げる。

### 5.1 ホームとお知らせ

本学の学生専用サイトにアクセスして最初に開かれるページが「ホーム」である。この「ホーム」を経由して、学生は「履修登録」「授業」「試験・成績」などのページに移動する。そのため、この「ホーム」には重要な情報が配置されている。

ホーム画面の中央には、「大学からのお知らせ」「学科からのお知らせ」といった様々なお知らせが掲示されており、まず学生はこれらを確認する。この「お知らせ」は、通学制の大学では事務所等に設置された「掲示板」に相当する。大学と学生をつなぐ重要な情報共有の場であり、大学の「学習環境」の入口でもある。

学生にとって必要なのは、学習の進行状況の管理である。決められた時間に決められた場所に向いて授業を受けるのではなく、場所や時間を問わず、自らの都合で学生専用サイトにアクセスして学ぶことが可能な本学では、各自の受講状況を自己管理するだけでは不十分である。大事なお知らせを見落とししたり、締切に間に合わなかったりすることを防

サイバー大学  
Cyber University

文字サイズ 小 中 大 お知らせ ヘルプ プロフィール設定 サイトマップ ログアウト

ホーム 授業 試験・成績 履修登録 各種申請 学生サポート リンク

現在位置: ホーム > お知らせ > お知らせの表示および通知設定

### 各お知らせの表示および通知設定

画面の表示設定  
トップページとお知らせページに画面にアラート情報・新着情報を表示できます

アラート情報  
視聴、小テスト、ディベート、レポートの期限の迫っている科目がある場合アラート情報を表示します

アラート情報の表示  表示する  表示しない

アラート情報の表示設定 確切日 1 日前を過ぎたら表示する

新着情報  
各種お知らせや、Q&A、ディベートの新規書き込み情報を表示します

新着情報の表示  表示する  表示しない

新着情報の表示設定 (最大99件まで)  
 前回のログインから新着情報として表示する  
 現在から 3 日前までを新着情報として表示する  
※前回のログイン～を設定した場合は、「ブラウザを閉じる」あるいは「ログアウト」すると新着情報がクリアされますのでご注意ください

お知らせ

- + トップ
- + サイバー大学からのお知らせ
- + 学科からのお知らせ
- + アラート情報一覧
- + 新着情報一覧
- + 各お知らせの表示および通知設定

? ヘルプ

- + 問い合わせ先
- + よくあるご質問
- + ご意見・ご要望
- + 画面・機能説明

閉じる

図7 「アラート情報」の設定

ぐために、システム上に「アラート情報」を表示する機能を用意している。新着情報をサイト上に表示したり、注意喚起するためのメールを送信するといった設定が可能となっている（図7）。

なお、アラート情報の対象としては、受講している科目の各授業回の出席認定期間、小テストの締め切り、ディベートの締め切り、レポートの締め切りの中から通知を希望するものだけを選ぶ。新着情報については、「大学からのお知らせ」「学科からのお知らせ」「科目のお知らせ」「ディベートの書き込み」「Q & A の書き込み」から選ぶことが可能となっている。

## 5.2 学生プロフィール

本学で学ぶ学生は、一般的な通学制大学より年齢、職業、居住地の幅が広く、また身体などに様々な障害を抱えている学生もいる。こうしたことを考慮して、前述したように学生同士が交流するディベートルームや、学生から書き込みのできる Q & A では、「本名」ではなく、自分で設定した「ニックネーム」や、「匿名」で書き込むことが可能になっている。学生自ら、自分の個人情報をどこまで公開するのかを設定できるのも、本学の一つの特徴である。

## 5.3 ショートメッセージ

「ホーム」の右列には「ショートメッセージ」が配置されている。このショートメッセージというのは学生専用サイト内でクラスメートと会話するための機能である。「クラスメート」とは、同じ授業を履修している学生のことを指す。「授業」ページで履修している科目を選び、その科目の「クラスメート」ページを開く。そしてメッセージを送りたい学生を選び、メッセージを送信する。このショートメッセージでは、「未読メッセージ」があることが表示されるため、学生は新着メッセージに気づきやすい。

## 5.4 eメール

本学では学生全員にメールアドレスを発行しており、このeメールを使用して、大学からの重要なお知らせや、教員・メンターからの科目受講に関するお知らせが送られている。原則として、授業運営に関わる連絡事項は、すべて大学発行のメールアドレスを使用することとなっている。学生プロフィールの下にある「eメール」の「受信トレイ」を押すと、サイバー大学メールとして使用している Microsoft 社の提供する Windows Live Hotmail の画面に飛ぶ仕組みとなっている。

2007年の開学当時、学生が使うメールは学生専用サイトと連動していたが、メールの保存容量等の問題から、2008年11月に新たに Windows Live Hotmail システムが導入された。この新たなメールシステムの導入により、保存できるメール容量が格段に増え、またインターネットにアクセスできる環境であれば、どこからでもメールを確認することが可能になった。さらに、Windows Live Hotmail には Windows Live SkyDrive とい

うデータ共有のシステムや、フォトアルバム等のシステムも付随しており、単なるメールの送受信だけにとどまらず、様々な利用の可能性が広がった。

学生専用サイトからは、ホーム画面左下のeメールの受信箱をクリックすると別ウィンドウが立ち上がり、Windows Live Hotmailのメールにアクセスすることができる。

メールアクセスやデータ共有などの利便性が増した反面、学生専用サイトとの連動が効かなくなり、新着メールがあったとしても学生専用サイトでそれを知ることができなくなってしまっている。学生は自分から受信箱をクリックしてWindows Live Hotmailにアクセスしないと、新たなメールが届いているかどうかを知ることはできない。このため、教員やメンターが学生にメールを送ったとしても、学生は気づかないこともあり、返信が遅くなり、授業運営に差し支える場合も出てきている。

インターネットを使ったオンライン大学であるサイバー大学では、授業運営に際して、学生と教員・メンター間の連絡にメールを多用している。このメールと学生専用サイトとの連動は、今後の課題と考えられる。

### 5.5 ヘルプ

本学で授業を受けるにあたり、必ずアクセスする「学生専用サイト」の仕組みと使い方を理解することは非常に重要である。誰もが簡単に使えるシステムの構築が望ましいが、すべての利用者にすべての機能を理解してもらうことは困難である。そのため、困ったことがあったらすぐに調べることができる「ヘルプ」ページの存在は重要であり、その内容の充実に努めている。そして、学生専用サイトの各ページには、必ず「ヘルプ」ページに飛べるボックスを設定している。

## 6. 学習環境をサポートする体制（学生専用サイト外）

サイバー大学が学生のために用意した学生専用サイト内における学習環境およびサポート体制について説明してきた。しかし、学生専用サイト内のシステムだけでは不十分な点もあり、学生専用サイト外にも様々なサポート体制を構築している。

### 6.1 オフィスアワー

オフィスアワーとは、授業内容・研究テーマ等について、教員が学生からの質問や相談を受けるために設定された時間帯のことをいう。通学制の大学では、設定された時間帯に教員が研究室に在室していて、そこで学生の質問や相談を受けるという形でその時間が活用される。

サイバー大学では本学のグループウェアであるCUBE（Cyber University Bilateral Exchange）に、専門科目を担当する各教員の研究室を設置し、研究室の入口にオフィスアワーの時間帯を掲示し、質問や相談をしたい学生から面談の事前予約を受け付けている。予約された日時に教員と学生は、Skype（音声なし音声+映像）を使用して面談を行う。



図8 オフィスアワー

教員の担当する科目をすでに履修した学生、履修中、または履修予定の全ての学生（正科生、科目等履修生、特修生問わず）が利用でき、科目の授業内容にとどまらず、広く研究テーマに関する質問や相談をすることが可能となっている。相談内容が限定されていないため、このオフィスアワーを利用することで、学生は自分のペースで大学での研究テーマについて相談することが可能となっている。

## 6.2 サイバー大学 SNS

通学制の大学と異なり、授業の合間などに学生が集う場所がない本学では、学生間の交流の場としてサイバー大学 SNS を開設している（詳細は第6章参照）。学生専用サイトでは同じ科目を履修している学生同士のつながりはあるが、それ以外の学生との交流は難しいため、この SNS が学生のコミュニティとなっている。なおこの SNS には学生のみならず、教員やメンターも参加することができ、授業とはまた異なった環境での教員・メンターと学生の交流が盛んに行われている。

学習や研究に必要な書籍等の資料を紹介したり、自分の研究活動状況を報告する教員もいることから、SNS も学生に対して学習や研究における幅広い情報を提供する場となっている。

### 6.3 担任制による履修相談

広い意味での学習指導（ラーニングサポート）の一環として、担任制による履修相談が実施されている（詳細は第5章参照）。前述したように学生専用サイト内には履修登録に必要な情報が各種掲載されているが、資料閲覧だけでは理解が難しい点などを、教員がSkype等で学生と面談することで、学生の科目履修のサポートを実施している。

## 7. まとめ

以上、サイバー大学が学生に用意している学習環境について述べてきた。システム的にはまだ不完全な部分も残されているが、eラーニングで学ぶために必要な自学自習、協調学習のための学習環境は十分に整備されているといえる。

本章では、学生の学習環境についてシステム的な面を中心に述べてきたが、人的なサポートも学生の学習に大きな影響を与えている。科目におけるサポートは教員やメンターによりQ & A 掲示板やディベートルームを活用して行われており、科目を超えた学習面でのサポートは専門科目を担当する教員によるオフィスアワーを利用した個別相談が中心となり、また担任制による履修相談の実施で、広く教員と学生の対話の機会が設けられている。

さらに広げると、学生生活（キャンパスライフ）全般でのサポートとしては、学生サポートセンターとシステムサポートセンターという二大サポート体制が敷かれている（詳細は第6章参照）。

いずれにせよ、本学の学生として学習を進めるにあたり、学習環境の中心である学生専用サイトの仕組みと使い方を十分に理解することは重要である。そのため、入学生に対して入学式の際にオリエンテーションを行うと同時に、オンラインオリエンテーションコンテンツを通して、学生専用サイトの使い方を学生に周知するように努めている。

また前述したように、教員やメンターと学生間のやり取りに使うeメールの重要性も、さらに周知する必要がある。学習支援システム（LMS）内で教員・メンターと学生とのやり取りのすべてが記録できるシステムではないため、現行のように独立したメールシステムを使用しながら、いかに教員・メンターと学生の間でのコミュニケーションを円滑に行うかが、学生の「学習環境」をサポートする体制の中でも重要なポイントであると考えられる。

「学習環境」といった場合、単なる学習者の存在する場のことではなく、学習のために用意された「場」や「環境」と捉えることができる。様々な「情報」や「機能」が用意されており、学習者が自ら働きかけることによって、それらが引き出され、活用される。

本学では「学生専用サイト」を中心とした学習者のための「学習環境」が整いつつある。「場」や「環境」は提供できたとしても、それを活用するのは学生自身である。授業を受け、そこで教えられる内容を「受動的」に受け取るだけでなく、授業コンテンツで学び、小テスト受験で理解度を測り、ディベートルームで意見を交換し、レポートで出された課

#### 第4章 学生の学習環境

題に取り組む，という「能動的」な行動が必要である。その過程において，自ら調べ，資料を探し，読んで考える，といった研究する姿勢も併せ持つことが重要である。

通学制の大学のように，時間割が決まっています，その時間にその場にいれば何かを学べるといった環境とは大きく異なる本学では，学生が「受動的」でなく，「能動的」に学習に取り組むことが可能な「場」と「環境」のさらなる整備，および学生への働きかけが今後も重要であると考えられる。

#### 注および引用文献

- (1) 本章は，特記している場合を除いて，2010年6月時点での学生専用サイトのシステムについての説明となる。
- (2) 文部科学省告示第百十四号  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/hakusho/nc/07091103/002.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/07091103/002.htm)  
(アクセス日：2010年6月30日)
- (3) 文部科学省省令第二十八号『大学設置基準』第三十六条，第三十八条  
[http://www.kyoto-u.ac.jp/uni\\_int/kitei/reiki\\_honbun/w0020949001.html](http://www.kyoto-u.ac.jp/uni_int/kitei/reiki_honbun/w0020949001.html)  
(アクセス日：2010年6月30日)